2021.12.19

Becoming an Invisible City Performance Project《青山編》

12.25 Sat 13:00–20:00｜12.26 Sun 12:00–18:00｜｜スパイラルホール

https://wwfes2021.wraptas.site/bic/top

1 日券 3,500 円（3,000 円）・2 日券 5,000 円（4,500 円）詳細▶Peatix

振付・出演：**山崎広太**

出演・振付コレボレーター：

浅沼圭、穴山香菜、木原浩太、久保田舞、小暮香帆、後藤ゆう、鶴家一仁、都田かほ、中林香波、長沼航、松尾望、松本奈々子、宮脇有紀、モテギミユ、八木光太郎、山口静、山中芽衣、山野邉明香、ヨシアノ、坂藤加菜、髙山花子、渡辺好博、田村友一郎（ストラクチャー）**、大谷能生、舩橋陽、竹下勇馬**

※**島地保武**は、怪我のため出演キャンセルとなりました。

＊このタイムラインは目安です。各セクション時間が伸び縮みする可能性があります。

＊また全体的にも、変更の可能性あります。

12.25 Sat｜13:00–20:00

パフォーマンス中、時折、エッジのように現れ関係を切り裂く、**髙山花子**の言葉の断片と、**ミルク倉庫＋ココナッツ**のビデオ。そして、どの場面でも横断する**大谷能生**らのサウンド！

13:00-13:45 「折口信夫著『死者の書』をモチーフに、青山の地下に眠る無意識の身体の表出」

13:45-15:00 「室伏鴻と土方巽をつなぐものは芦川羊子なのか？」***1**

15:00-15:30 「waiting@表参道交差点、の演劇」

15:30-16:30 「疾走する青山 - 青山身体地図」***2**

16:30-17:00 「儀式としてのダンス - 喧騒から静寂へ」

17:00-17:30 「遠方の病める舞姫 - **久保田舞、坂藤香菜**」

17:30-19:00 「**田村友一郎**ストラクチャーによる《南青山再開発事業（仮称）負のスパイラルから抜け出す》」 *出演者に変更がありました。

19:00-20:00 「郡司ペギオ幸夫著 『やってくる』をモチーフにダサカッコワルイ・ダンス with **Aokid** ほか」*出演者に変更がありました。

12.26 Sun | 12:00–18:00

パフォーマンス中、時折、エッジのように現れ関係を切り裂く、**髙山花子**の言葉の断片と、**ミルク倉庫＋ココナッツ**のビデオ。そして、どの場面でも横断する**大谷能生**らのサウンド！

12:00-12:40 「身体の 70%は水分」***3**
12:40-13:00 「自然との対峙、出るものは声」***4**
13:00-14:00 「言葉のアナーキズムへようこそ」
14:00-14:30 「waiting@表参道交差点、の演劇 2 日目」
14:30-15:20 「青山フリーダム」***5**
15:20-15:40 「**吉本有輝子**の照明による気配のパフォーマンス」
15:40-16:45 「ランダム・ユニゾン・シアター：BIC〈青山編〉のための小説から」***6**
16:45-17:00 「公開版 知覚と身念」- **西村未奈**と観客 1 名による親密な対話
17:00-17:30 「Non Stop Moving」- **BIC ダンサー**総勢 20 名以上による
グルービーな止まらないダンス！！
17:30-18:00 「**大谷能生**の DJ による 80 年代歌謡曲オンパレード
クラブミュージックファイナル・ダンスパーティー」***7**

12.25 Sat | 13:00–20:00
12.26 Sun | 12:00–18:00

［**展示**］

スパイラルホール
山崎成美《紙を通り過ぎた馬》　**永田康祐**《Sierra》
＊上演空間での展示のため展示作品の鑑賞が困難な場合があります。ご了承ください。

スパイラルホール ホワイエ
木内俊克《surface》　**神村恵**《STREET MUTTERS〈青山編〉》

振付ノート――山崎広太

***1**――昔、青山に室伏鴻が立ち上げた酒場 shy があった。室伏さんが言っていた「俺は土方と違って芸能的なものには興味がないから」と。それは裏返せば土方とパラレルな関係であることの言葉であり、死んでしまった土方さんに対しての尊敬に値する言葉として感じた。2 人を繋ぐものがあるはず。それは僕にとっては芦川羊子さん再考。そこに何が通底しているのか？

***2**――**青山で採集したフラグメント**の開示と複雑な即興ストラクチャーやお客さんへのインタビューとともに青山身体地図を試みるカオティック時空間「青山おばちゃん」「青山での公共とプリベートの逆転」「大ムカデに襲われた君は緑の鼻毛に覆われて」「ソテツを見たら会釈すること」などなど。また、12/24 に巣鴨地蔵通り商店街の 7days を拠点に行われた BIC メンバーと**渡辺好博**による街ブラ体験も。

***3**――人間の身体はバラバラだけれど 70%は水分。水の流れは表面張力、重力と遠心力が伴って起きる。その法則性に触れた時に違った次元の美を感じる時がある。

***4**――打ち寄せる大波に必死に対抗した時、身体が支えられなくなる。その時、私の意志ではなくて外の力によって引き起こされるムーブメントは思った以上にピュア。それを支えようとする身体も然り。修行する身体？そして、支えられなくなった時に、出るものは声。

***5**――**ダサカッコワルイ・ダンス**（12/23 18:30-20:00@スパイラルホール）通過後の複雑なレイヤーを持つ即興パフォーマンス。「エゴン・シーレ・ゾンビムーブメント、絶対的な郷愁を伴って」「点滅する身体、しかし消えている時の移動は線が残り、それもデザイン」「フォーサイス・テクニックから力学的スキゾ系へと展開」「力の関係のデザイン、匂う感覚、色の感覚さえも」「アニマルスキゾと紙的トランスフォームの融合性」「遠方にいる違う私とのコンタクト」「苔の生態系と皮膚トランスポーテーションの時間的、寄生的な意味での比較ムーブメント」などなど、膨大なムーブメントストラクチャーの同時多発オンパレード。時間の建築化。

***6**――青山の様々な場所からインスパイアされ、BIC メンバーが執筆した **BIC〈青山編〉のための小説**（オンラインで公開中）。これがダンスのスクリプトとして成立するのか実験。「白鳥の湖」のようにダンスのストーリーはシンプル。複雑化すると陳腐になる傾向。ダンスのためのスクリプトとして成立するには、ランダムユニゾンに秘訣があると（勝手に）想像。

***7**――80 年代、毎晩深夜、六本木、青山、原宿のクラブで遊びまくっていた。一方、80 年代はコンテンポラリーダンスのルネッサンス期でもあり、どんなものも生まれるエネルギーがあった。この二つは何故か相関していると感じる。

WWFes2021 スタッフ

舞台監督：河内崇｜照明：吉本有輝子｜音響：相川貴｜制作協力：武田侑子、林慶一

会場構成：木内俊克、山川陸｜会場構成アシスタント：關田重太郎

記録撮影：宮澤響（合同会社アロポジデ）｜グラフィック・デザイン：鈴木哲生

Whenever Wherever Festival 2021　主催：一般社団法人 Body Arts Laboratory　会場協力：株式会社ワコールアートセンター　企画協力：株式会社小林プロデュース　助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京　「Becoming an Invisible City Performance Project〈青山編〉――見えない都市」文化庁「ARTS for the future!」補助対象事業